

魅力ある農林水産業の振興

早朝ナマコ漁に向かう漁船



大村市は温暖な気候に加え、多良山系の山林と水が豊富で、古くから農業が盛んな地域です。

農業は、本市の面積の約15%を占めている農地で、野菜（イチゴ、トマト、キュウリなど）、果樹（ミカン、ナシ、ブドウなど）、花き（カーネーション、菊など）、畜産（肉用牛、豚など）、米などが生産されています。いわゆる少量多品目が特徴で、地域特色に応じた生産を推進しています。

林業は、本市の面積の47%を占めている森林の集約化により、計画的な間伐を進め、森林の保全に取り組んでいます。

水産業は、大村湾を漁場とした沿岸漁業が主体で、主なものはナマコ・サザエ・シヤコで、近年はカキの養殖にも取り組んでいます。

全国的に問題となっている農林水産業者の高齢化や後継者不足などを解消するため、若い人にとって魅力ある産業となるよう各種施策に取り組んでいます。とりわけ担い手の育成と確保を行い、規模拡大や所得向上を目指し、ブランド化や6次産業化などを推進していきます。



「九州の隠れ牛」と評判の長崎和牛を出荷



松原・福重地区はイチゴの栽培が盛ん